

仙人通信 164 霧訪山(1305m)

霧訪(きりとう)山は、伊那谷と木曾谷に挟まれた中央アルプスの最北端に位置した山で、立木の除かれた山頂からは360度の展望の利く、2等三角点の山である。

JR中央線の辰野と塩尻の間にある小野駅に車を置き、小野地区の歴史散策を兼ねての登山を計画した。駅前の国道153号線を塩尻に向かい700m程に信濃二の宮の弥彦神社と小野神社が祀られており、その横道を両小野中学校の正門に向かい、更に山際にある天神様の鳥居を目指して、収穫期の蕎麦畑の農道を進む。この地は小野の牧と言われ、信濃の国28牧の1つであると吾妻鏡にも出てくるとある。駅から25分程で登山口を示す大きな石碑だ。登山の身支度を整え、ポストにあるノートに名前を書いたのスタートである。

山頂まで1.8kmとの表示に、気を楽にしての登山だ。茶色く紅葉した唐松林の下の落葉を踏締めてのスタート点だ。登山道は塩ビ製のブロック状の急な階段である。200m程進むと、この階段も終わり、赤松林の登りとなり赤く実ったガマズミの実に太陽があたり綺麗だ。コースの両側に黄色と黒のトラロープが張られており、コースに迷う事はない。このロープは、茸の自生する松林への侵入防止を兼ねているようだ。枯葉で埋まった尾根コースではあるが、松の根と泥岩質の岩の急登で、前述のトラロープを手繰ってゆっくりと登る。

25分程進むと、目の前に大きな石の御嶽大権現の碑だ。江戸時代に木曾御嶽山を1山信仰とし、この地に祀り祭事の目的で1811年に建立されたとある。更に7分程で高压送電線の鉄塔の立つ、かっとり城跡である。送電線の保守の為に送電線に沿って伐採された先には、戸倉山が望めた。かっとり城とは、戦国時代に小笠原氏が小野地区に築いた3つの城の1つとある。ここからは、送電線の点検路となり平らな尾根道となるも、南側は整然と植えられた30cmもある赤松の林であり、視界は利かない。北側も落葉樹ではあるが始まったばかりの紅葉で同様だ。鉄塔から100m程進むと両側に⇄の付いた道標で、送電線の点検路を經由して山頂に至る新登山道と旧来の現登山路の分岐点である。ここからは尾根筋を登る現登山路を登る。分岐から10分程で緩やかな登りとなり、青いトタンの三角屋根の避難小屋とベンチだ。北へ延びる尾根に岩を剥き出した大きな崖が望めるも、視界は狭い。足元では、落葉の間から粘板岩質の青い岩が、赤松の根に抱えられている。ロープを頼りに45分程の急登で山頂である。登山口から1時間30分を要してしまった。山頂は360°の眺望で、安曇野の先に雪化粧した白馬が、西には薄化粧の穂高や乗鞍が、その南には噴火した木曾御岳だ。南には木曾駒ヶ岳だ。霧ヶ峰・蓼科・諏訪湖と八ヶ岳・茅ヶ岳・そして北岳を始め南アルプスの山々である。青天にも恵まれた山頂で30分程展望を満喫し、夢叶う霧訪の鐘を鳴らし、下山した4時間弱(16000歩)の歴史散策気分も充たした登山でした。(h29.11.2)

山頂



白馬山塊



穂高等



八ヶ岳

